

# 徳島県総合計画審議会 会議録

I 日時 令和2年2月5日(水) 午前10時30分～午後0時15分

II 場所 県庁10階 大会議室

III 出席者

【委員】44名中24名出席

山中英生会長、金貞均副会長(「未知への挑戦」推進部会長)、中央子副会長、青木正繁委員、梅崎康典委員、大森千夏委員、梯学委員、金村盟委員、久米清美委員、小谷憲市委員、小林通伸委員、齒朶山加代委員、清水康代委員、高橋啓子委員、近森由記子委員、寺内カツコ委員、布川徹委員、福山徳委員、分木秀樹委員、松崎美穂子委員、真鍋恵美子委員、山上敦子委員、吉尾さだえ委員、米澤和美委員

【県】

後藤田副知事、各部局副部長 ほか

IV 議題

(1) 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」の改善見直しについて

(2) その他

《配布資料》

資料1 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」令和2年度への「改善見直し」(案)について

資料2 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」改善見直しシート

資料3 県政運営評価戦略会議からの「基本目標ごとの意見・提言」への対応方針等

資料4 県政運営評価戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」への対応方針等

資料5 「『未知への挑戦』推進部会」における委員意見への対応内容

資料6 対話集会「新未来セッションNEO」意見への対応内容

IV 議事録

1 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」の改善見直しについて

- ・「未知への挑戦」推進部会での審議内容について、金部会長(副会長)から報告
- ・事務局より「『未知への挑戦』とくしま行動計画」の改善見直しについて、資料1により説明

その後、意見交換が行われた。

<意見交換>

(山中会長)

それでは、どなたからでも結構ですので、ご意見をよろしくお願い致します。

青木委員、よろしく申し上げます。

(青木委員)

まず、私の方は先程事務局や金部会長からも報告がありました「若者との対話集会『新未来セッションNEO』」に参加をさせて頂きました。やはり今後も見直しの時だけでなく、若い世代から意見を聞くことは大事な視点ですので、継続して頂ければと思っております。

私からは意見が3つございます。1つ目はDMVについてです。DMVについて、先程の動画や新聞、体験会等を数多くされておりますので、1度は聞いた、見た、乗ったことがあるという方々がいらっしゃると思います。先程、動画にはありませんでしたが、15秒でバスが列車になり、列車がバスになるという鉄道とバスが組み合わせられたデュアル・モード・ビークルという乗り物でございます。DMVについて、観光視点で今年は東京オリ・パラもありますので、DMVを活かして頂きたいと考えています。是非、DMVのPRをもう少し、これからのスケジュールに則って、やっていって頂ければと思っております。今後のスケジュールが分かれば、後ほど教えてください。

それと関連して、DMOの話です。実は、四国の右下観光局の日本版DMOへの登録が1月14日に終わっております。これで、県西部はそらの郷、東部はイーストとくしま観光推進機構、南部では四国の右下観光局ということで、徳島県としては3つの日本版DMOが登録できたということでございます。県南部としては四国の右下観光局を中心として、インバウンドである外国人観光客の誘致はもちろん、地元での体験型のイベントや宿泊施設の情報発信等も考えていく予定だと伺っております。是非、東京オリ・パラ、ワールドマスターズゲームズ2021関西の会場も県南部では控えてございますので、DMVとDMOを重ねて頂いて、国外はもちろん、県内外から人を呼び込む、また観光視点でもって頂きたいと考えてございます。特にワールドマスターズゲームズ2021関西の時は、関西が主流でございます。徳島県は関西広域連合にも所属しておりますので、その視点等を合わせて進めて頂きたいと思っております。

最後にお願いがございます。私は今までにこの総合計画審議会において、四国新幹線やジャンボジェット機の話をして頂きました。今回は、災害視点で病院船が欲しいという話です。病院船というのは医療人材等で膨大なお金が掛かるということは承知でご意見を申し上げてございます。しかし、災害時の病院船の役割というのは、県南部や関西広域連合に所属する和歌山県におきましても、必ず役に立つと考えてございます。特に災害時の役割としては、72時間以内に人と物、危機管理センター、オフサイトセンター、また最新の医療が現場に持って行ける、また手術ができるという視点がございます。予算と莫大な人材確保が必要ですので、次年度にという話ではないですし、徳島県だけでということは望んでおりません。関西広域連合や日本で考えるべき視点だということでお願いをしたいと考えてございますので、是非、提言などのご検討をお願い申し上げたいと思っております。

(山中会長)

ありがとうございます。事務局からDMVのスケジュールについてなにかありますか。

(県土整備部)

DMVの導入についてご質問を頂きました。道路と線路の両方を走行可能なデュアル・モード・ビークルですが、これは鉄道維持や存続だけでなく、車両自体が観光資源となり県南部の観光振興はもとより、地域の活性化など様々な効果が期待できるものとして、2020年度の運行開始を目指して取り組んでいるところでございます。これまでは車両製作等や線路と道路をつなぐ甲浦駅のスロープ、DMVの安全設備となる運転保安システムの整備の他、鉄道とバスのモード切替設備の詳細設計などハード整備を進める中、本格営業運行に向けて最終的な安全性を検証するため、去る1月17日に国土交通省におきまして、第1回のDMV技術評価検討会が開催されたところであります。また、DMVの導入効果を高めるために重要となるバスモードの活用策につきましては、去る12月24日に開催しましたDMV導入協議会において、運行ルート案を示させて頂いたところでありまして、今後、法令に基づいた地域公共交通会議の開催をはじめ、各種手続きを進めてまいります。

ご質問のありましたPR等につきましては、昨年10月5日に海陽町、東洋町におきまして、DMV全車両完成記念イベントを開催し、それを皮切りに、11月30日から京都鉄道博物館において関西初となるDMVのPR展示を行ったところです。来年に向けては、魅力発信として試運転の見学会や開業カウントダウンイベント、開業セレモニー、また全国の鉄道ファンに向けた情報発信を積極的に進めてまいりたいと考えております。

(山中会長)

ありがとうございます。他にご質問いかがでしょうか。では、久米委員お願いします。

(久米委員)

私の方からは相談支援事業について、県にお願いをしたいと思っております。今回の見直しの中で、相談支援従事者研修の修了者の累計数が3,600人から4,200人と上方修正をされておりまして、これは大いに評価をしたいと思っております。ところが、県の方ではこういった相談支援従事者の養成を力を入れて取り組んで頂いているのですが、県内の相談事業が極めて厳しい状況になっております。現在、相談支援専門員の業務が非常に過多になっておりまして、事業所は実質赤字経営でございます。言うまでもないことですが、相談事業は地域共生社会を確立するためにも、それから障がい者の地域生活を支えるためにも極めて重要な事業であります。それで県にお願いでございますが、国に対して地方の厳しい状況をお伝え頂くとともに、障がい者相談支援専門員の処遇改善及び事業所において、相談支援専門員の増員ができるような制度改正に向けて、国の方に提言をして頂きたいということでございます。

(山中会長)

ありがとうございます。これについて、事務局から何かありますでしょうか。

(保健福祉部)

今回の数値目標の見直しですが、障がい福祉サービスの提供に必要な役割を果たすサービス管理責任者等の質の向上を図るため、国が制度改革を行い、新たな研修を設けたことにより、研修に対するニーズが高まること等を踏まえ、修了者数の数値目標を修正するものでございます。本県では障がい者相談支援センターにおいて、相談支援従事者研修を実施しているところです。県内の障がい福祉サービス等の利用計画の対象者ですが、現在11,205人となっております。年々増加をしております。

一方、サービス等利用計画の作成や一般の相談に対応して頂いております相談支援事業所は県内で55ヵ所ございます。また、相談支援専門員の方は136人となっております。この数値でございますが、相談支援専門員の方は2年前に比べ21人の増加となっておりますが、一方で県内の事業所については横ばい状態でございます。障がい福祉サービスへのニーズが高まる中、相談支援事業所の確保や相談支援専門員の質、量の拡大・充実が必要だと認識しております。また、相談支援専門員1人あたりのサービス等利用計画の作成対象者数でございますが、約82件を1人が持っております。国が想定している標準的な1人あたりの作成件数は35件ということで、これの倍を上回っております。

こうした中で国の取り組みですが、平成30年度にサービスの質を評価した報酬体系の見直しを行い、基本報酬を引き下げる一方で、相談支援専門員の手厚い配置等を評価した各種加算制度を創設したところです。これを県内に置いてみますと、相談支援事業所は小規模な事業所が多いことから、加算取得のハードルが高いといったところがございます。十分利用できていない状況と認識しております。

委員からご提言頂きました内容については、県としても対応をする必要があると考えておまして、現場の皆さんから相談支援事業所の運営実態や課題等を十分伺いした上で、相談支援事業所の新規参入増加や、相談支援専門員の確保が図られるように、国の方に現状・改善策について提言してまいりたいと考えてございますので、現場の意見等をお聞かせ頂ければと思います。

(山中会長)

他にいかがでしょうか。梯委員お願いします。

(梯委員)

現在、日本全体が抱えている問題で、人口減少が一番大きい問題だと思っております。「『未知への挑戦』とくしま行動計画」の中にも、人口減少を意識した計画が盛り込まれているという中で、やはり定着人口と交流人口の両方同時に進めていかなければいけない問題ではないかと思っております。定着人口となると20代の若い方をいかに徳島県へ定着させるかという施策の中で、次世代LEDや5G技術の活用による雇用創出ということで、人口減少を少しでも食い止めようと計画

をされています。やはり、それ以上に若者が働く場ということで言うと、サービス業をいかに充実させていくのか、手厚いフォローをいかにしていくのか、また、特に徳島市中心部をいかに活性化させていくかといった問題が非常に重要ではないかと思っております。徳島市となると市に任せることになるかと思えますけれども、もう少し積極的に県の方も取り組んでいかないと、そごうの撤退の話もありますし、若者の雇用の場の創出となると、サービス業や第三次産業をどうするか、農業も含めたという部分もあるかと思えますが、農業をいかに6次産業化するかといった部分などで雇用の場をどう創出していくかということ、より具体的に計画していかないと、次世代LEDなどは雇用の場を生むようなものになりにくいところもありますので。特に若い女性の方が徳島県に残って頂く、4年制大学を卒業して徳島に戻ってきたくなるような雇用の場の受け皿という形で、市内のサービス業をもう少し重点的に施策を見直していかなければいけないのではないかとということが1点です。

もう1つが、この中では「徳島ファン」ということで、関係人口ということで取り組んでいると記載されています。その中でも阿波踊り、「徳島＝阿波踊り」という部分での定着をいかに国内外に発信していくかという中で、情報量がまだまだ足りない部分もありますし、やはり阿波踊りとなると多少踊りに関する専門性等も必要になってくると思えますので、県庁にいる阿波踊りの達人のような方を1つの部署に集めてみるであるとか、阿波踊りを文化・イベントと分けながら考える中で、阿波踊りを通じた関係人口をいかに取り込んでいくのか。また、阿波踊りをされている方々は、何度も徳島に来たいという方もいらっしゃいますので、一般的な観光ということではなく、関係人口の取組みの中で阿波踊りをいかに使っていくのか、そのためには阿波踊りをもう少し施策として文化として、広めていく使っていくことを考えるセクションを充実して頂けたらと考えております。できれば県庁の中に、「阿波踊り推進課」のような部署ができれば、我々としては非常に嬉しいと考えております。

(山中会長)

ありがとうございます。どうぞ、松崎委員お願いします。

(松崎委員)

資料1の11ページですが、「林業プロジェクト」の展開「徳島木のおもちゃ美術館（仮称）」についてです。2021年に開設となっております。これは林業プロジェクトの大きな目玉になっていて、あすたむらんど四季彩館のところをリニューアルということになっておりますけれども、林業を含めて徳島の伝統産業、木に関連して遊山箱、阿波木偶人形、和三盆の木箱や藍染めも含めまして、赤ちゃんの遊ぶ木育広場から高齢者の方までが利用でき、新たな徳島を再発見する場になると思えます。林野庁が全国に木育キャラバンということで、木育活動の拠点として東京おもちゃ美術館から発信されているものであり、徳島の場合も東京おもちゃ美術館の姉妹館になります。今、姉妹館は全国で、山口、沖縄、秋田の3館しかない

のですが、徳島が開館する令和3年の時期には全国で姉妹館が11館オープンする予定で、県立のおもちゃ美術館というのは徳島が初ということです。木のおもちゃ美術館については、林業戦略課が担当されていると思います。姉妹館というところで、全国的にも国からもかなり注目を浴びている施設が完成するということで、できれば林業戦略課だけでなく、にぎわいづくり課も四季彩館の周辺も含めまして、徳島木のおもちゃ美術館の開設に向けて準備して頂きたいと思っております。本来であれば、木材の関係の津田木材団地や那賀町であったり、池田などに木のおもちゃ美術館があれば魅力発信もできるのですが、今回あすたむらんど20周年に合わせてのリニューアルということで、そこから色んな林業や木育関係のところに広げるということを考え、県内だけでなく四国や関西方面から、多くの子育て世代ファミリーの方が来てくださることを願って、大きな期待を持っております。できましたら林業戦略課だけでなく、にぎわいづくり課も含めまして、徳島木のおもちゃ美術館の開設にあたって基本構想を策定して頂ければと思います。

(農林水産部)

本県は、木育を県を挙げて推進してまいりました。県内には20カ所のすぎの子木育広場がございまして、その中核拠点ということで、木のおもちゃ美術館を整備させて頂くというものでございます。場所につきましては、小さなお子様が訪れることや既存ストックを有効に活用していこうという観点からあすたむらんど徳島にある四季彩館を活用させて頂くことになりました。当然、東京おもちゃ美術館とも連携を致しますし、全国にできる木のおもちゃ美術館とも姉妹館としてやっていきます。更におっしゃって頂きましたように、交通の便が良いところがございますので、徳島だけでなく関西、四国全域さらには中国地方を狙いながら、木育の拠点となるように整備を進めてまいりたいと考えております。これについては、あすたむらんどにございますので、にぎわいづくり課とも調整しながら進めていきたいと考えております。

(山中会長)

近森委員お願いします。

(近森委員)

今回の行動計画を見させて頂いて、DMVの導入、スマート農業や5Gの活用等、更なるわくわく感が伝わってくる計画だなと思えました。これをいかに情報発信していくかということもあるかと思いますが、県民の方が木のおもちゃ美術館ができるんだなどといった、色んなわくわく感が伝わるようになっていくのではないかと感じています。その中でも、資料12ページの「Society 5.0 リードエリア」ということで、2022年度までに3エリア指定とありますが、具体的にどこなのか教えて頂きたいと思えます。5Gのリードエリアがあって、活用されたものが具体化されていくのであれば、移住などもここに住めばこういったことができるといったイメージも具体化されやすいのではないかと思いました。人口減少や

災害など色々あって、今後どうなっていくか不安が強い時代ではないかと思うのですけれども、色々やっていてわくわく感があるのが徳島だということを伝えられたらいいと思いました。

(政策創造部・地方創生推進課)

Society 5.0のリードエリアについてですが、令和2年度の予算事業として実施する予定でございます。今後、各市町村に公募をかけて選定していくという形になっておりますので、エリアは具体的には決まっておりません。今後、Society 5.0を実装する所を選定して、県と共に進めていきたいと考えております。

(山中会長)

米澤委員お願いします。

(米澤委員)

3点程ございまして、まずは徳島駅から阿波おどり会館に続く道と東新町周辺の寂しい状況を毎日よく見ておりました、徳島駅から阿波おどり会館に向けての道を「阿波踊りロード」などと打ち出して頂いて、なにか仕掛けをしていくとか、徳島市や、民間で特に新町川を守る会の方々が活発に活動しておられますので、そういったものも活用しながら、毎日活気が出るようにして頂きたいと思います。できれば東新町も商店ではなくて、市内のIT関係の企業を集中的に集めて税金の優遇であるとか、そういった形でして頂けるような大きな街づくりの構想を県で打ち出して頂ければと思います。

それと、働く場での仕事ということなんですけども、どの方の意見を聞いても行き着くところは子育てということで、単に保育所といった受け入れ先を探すことや待機児童をなくすということではなく、どういう子育てをしていく、こういう子どもを県民全体で育てていくんだという方針を県で打ち出して頂いて、その方向に向かって県全体で動いていくような、小さい時から子育てというより教育をしていくことができたらいと思います。

また、今日の会議で、タブレットで資料を確認するという方式は、新しい試みで良いと感じました。ただ、徳島県民おそらくこれから高齢化していくので、もう少し見やすい字にしてほしいとも思いました。もう少し大きくても良いのかなと思います。これからは子ども達がこういったものを使う世代になっていくので、予算的には重点的に投下して頂ければと思います。

(山中会長)

最初の意見は徳島市中心部の活性化の話ですが、おっしゃる通りあのエリアを活性化していくことは県も色々検討して頂いておりますし、是非やっていくべきことだと思いました。

子育てについては、何かございますか。

(県民環境部)

今回、改善見直しということで、資料2の9ページをご覧ください。チーム育児について、見直したところでございます。共働き家族の増加や核家族化、地域の間人関係の希薄化に伴い、家庭内での子育ての孤立や負担感の増加が進んでおります。そうした中で、委員がおっしゃったように、子育て環境を改善していく必要がございます。こうした現在の子育て環境におきまして、仕事と子育てを両立させるためには、夫婦の協働による子育てを中心として、子育て支援サービスやツール、周りの人の援助を家庭の事情に応じて取り入れ、チームとして頼りながら楽しみを感じつつ行う育児を「チーム育児」として実践するというところでございます。そこで、現在策定中の次世代育成支援行動計画・第2期徳島はぐくみプラン（後期計画）において、チーム育児の普及を施策の1つとして推進していくこととしております。併せて、チームの一員となって子育て中の従業員を支援し、チーム育児の普及に賛同・協力している企業を「チーム育児応援企業」として普及、啓発していくこととして、総合計画においても新規施策として追加することとしております。お話しにあったとおり、県の全体方針も必要でございます。個々の施策の中で十分このあたりを活かしながら、頂いたご提言について十分検証等を重ねていきたいと思っております。

(米澤委員)

もう1点教えて頂きたいのですが、徳島ファン登録というのは、どのような方が対象で、どういったメリットがあるのでしょうか。私は県外に行くのと徳島を紹介して、毎年来て頂いて、安くて美味しい特産品などをお薦めすると、ファンになって購入して下さったりもするので、徳島県民皆さんが観光大使のようになって、県外の皆様に観光に来て頂いたり、商品を買って頂くような役割を担って頂ければと思、ご質問しました。

(政策創造部・地方創生推進課)

徳島ファンですが、現在、移住や定住には至らないものの、地域や地域の人々と多様に関わる地域外の人材を関係人口と総務省で言うておきまして、徳島県では徳島ファンと言わせて頂いております。徳島ファンバンクの登録につきましては、徳島県が好きであるとか、何かしてあげたいといった気持ちを持って関わって頂く方もいらっしゃいますが、そういった方の中から、地域のためにこうしたことができるといったようなスキルを持った方を徳島ファンバンクに登録させて頂いて、その方と特定の地域の課題を持っている市町村をマッチングして、地域課題の解決に繋げていくというのが徳島ファンバンクの登録となっております。もちろん、よく観光に来て頂くことや県外で徳島のもをよく買って頂く、応援して頂くという方々も、大事な徳島ファンでございますが、徳島ファンバンクの登録に関しては、そういった方々を登録させていただく形で目標を40人とさせて頂いております。

(山中会長)



どちらかというと、徳島ファンは呼び込む人のことを言っているんですか。40人は少ないような気がするのですが。

(政策創造部・地方創生推進課)

徳島ファンだと何百、何千、何万といらっしゃると思いますが、ここではスキルを持った方で応援していただける方を登録する形になっております。

(布川委員)

今のお話を聞いてですが、当社も家具のメーカーとして、全国に商品を卸しております。全国の取引先の方が、当社の工場見学に来て頂けるんですが、その時に必ず徳島の紹介などしております。そうすることによって、徳島のためになればいいかなと思ってやっております。やはり一番は企業、経済がよくなっていかないといけないと思います。我々、中小企業が元気になってやっていくということが一番であると思います。当社が今やっていることについて、この場でご報告をさせていただきました。

(山中会長)

はい。ありがとうございます。齒朶山委員お願いします。

(齒朶山委員)

先程、米澤委員が子育ては単なる子育てではなく、教育であるとおっしゃられてきて、とても大切な観点だと思います。どのような子どもを育てるのかということと徳島県として目標を持ってPRをして頂きたいという点が、非常に大事だと思います。今、子ども達がどうなっているのか、人間がどうなっているのか、とても怖い面があると感じます。特にインターネットの世界では、人を差別したり、蹴落としたりという書き込みが1秒ごとに起こっておりまして、県もそのことを重視して一昨年からモニタリング制度を作り、どのような書き込みがされているのかを大学生なども巻き込んで、監視をするチームを作られています。しかし、あまりにも膨大な数で対応しようがないというような状況です。それを誰がするのかというと、人間がしています。かつては若い人達が書き込みをしているのかと思っていましたが、今は時間にゆとりができた退職をされた人達も書き込みに加わっているのではないかということも言われております。それは別として、子ども達をどう育てていくかということが大事だと思います。特に人権を尊重する、2016年に障がい者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消推進法ができていますが、そういった観点に基づいた、どのような子育てをするのかというビジョンが、今、無いのではないかと思います。過去には、どのような子どもを育てるのかという徳島県としての方針を持たれていました。保育所から幼稚園段階まででどういった子育てをするのかということが、県民に提案をされたのですが、その中身は今も通用するものだと思います。そういったことを見直して頂いて、徳島県としてどのような子どもを育てていくのかという大きなPRをして頂ければありがたいと思います。

(政策創造部・総合政策課)

ただ今、子どもを小さい時から教育の部分について、どういった考え方でやるのかということが非常に大切だというお話がありました。本県でも、法律等の改正もございまして、平成27年度に徳島県教育大綱を策定しております。昨年にも大綱を見直して新しいものにしておりますが、この中で県として、小さい頃から大人になるまでの教育、どういった考え方でやるのかということ、またどういった大人になって頂きたいかという人材像も明らかした上で、どういう形で取り組んでいくのかについて、大きな方針をまとめたものを策定してございます。それで昨年度に議論をする中で、例えば人口減少や地域で過疎が進む中で、先ほど定着というお話もありましたが、ふるさとについてもっと子どもに知って頂く必要があるなど、そういった部分の教育や知識をしっかりと教えることが大事だというご意見も頂きました。ふるさと教育といった視点も盛り込むであるとか、最近の環境や防災といった部分を強化していくことなど、色々ご意見を頂きながら、大綱を策定しております。そういった部分で、教育委員会とも協力して取組みを進めていこうとしております。

(山中会長)

高橋委員をお願いします。

(高橋委員)

私は大学教員としての立場から、地域に関する授業等を行っている中で、若者が魅力と感ずることや徳島の魅力を伝えるといった項目もありましたが、先日そういった授業をした時に、県外の学生の方が徳島のことをよく見ているということがあります。地元でいるとなかなか気づかないことが、外から入ってくると分かるというような中で、留学生だったんですが、徳島の魅力を3つ書いてもらおうと「水が美味しい、緑がきれい」といった自然に関することを書いていました。やはり我々、毎日生活をしていると、そういったことは当たり前とっておりますが、そういうことが徳島の良さなのかと思いました。また、私は食の研究などを行っているので、郷土料理のことをよく聞かれるのですが、徳島の郷土料理というとあまり華やかさが無いという印象があります。しかし、素材として魚や野菜といったすごく新鮮で美味しいものがたくさんあるといったことを、学生や県外の方々にも伝えたり、逆に教えてもらうことも多々あります。徳島の魅力を伝える中で、資料にもVR動画や体験型コンテンツを作るであるとかの記載がありますが、もっと上手に積極的に、阿波踊りだけではなく他の徳島の素晴らしいものを伝えていって頂きたいということが1つです。また、具体的な体験型コンテンツがあれば教えて頂きたいと思えます。

それからSDGsのことについてです。エシカル消費の認知度が43%となっておりますが、低いなと感じました。もっと知ってもらう必要があるのだらうと思っております。食品ロスの協力店やとくしま食べきるんじょ協力店といった中で、消費者としてどのように食品ロスができるのかといった教育を、若いときからやっていく

必要があるのではないかと思います。そういったことで、生活環境も改善されていくと感じています。

最後に、徳島県には子ども食堂が20カ所程度あり、全国で最も少ないと言われています。子ども食堂というのは貧困対策として始められたと言われておりますが、今は子ども達の居場所づくり、子ども達が家庭だけ学校だけというのではなく、兄弟が少なくなっている中で、異世代とも関わる経験ができる場だと思っております。そういった所への支援もお願いできたらと思います。

(経営戦略部)

広報の面からお話をさせていただきます。県ではホームページやSNS、動画等、各種媒体を使ってこれまでも情報発信を続けてきたところであります。今春からは5Gという新たな流れが出てくる中で、5G時代を見据えまして、VR動画も非常に大事になってくるのではないかとということで、それでの発信も考えております。更にVR動画を県職員が作ってみようということで、若手職員を中心にワークショップ形式で研修を積んで頂いて、徳島を紹介するようなVR動画を作り、先月アスティとくしまでありましたICTバザールでお披露目をさせて頂いたところでございます。今後、それら新しい技術も活用しながら、徳島の魅力をPRしてまいりたいと考えております。

(山中会長)

最近ではVRだけではなく、XRやMRなど多くの新しい技術がありますので、色々なメディアを使ってやって頂きたいと思っております。先程からいくつかご提案頂いているように、モノや施設などに対して人がやってくるということは当然なんです。人が人を呼んでいるという形がどんどん増えていって、そういった発信力のある人をどうやって作っていくかというのが皆さんのご指摘の中心となのかなと思っております。お聞きしておりました。次に、山上委員をお願いします。

(山上委員)

ターゲット1の重点戦略3に「人生100年時代！健康寿命延伸へ『フレイル対策』展開」として、フレイルを挙げて頂いており、1月号の県政だよりでもフレイル予防作戦を始めたことを広報されているのを拝見しました。フレイルの対象者は高齢者ですが、要支援や要介護となってくる原因の大きな部分は、脳卒中や認知症、このフレイルで占めております。更に、これらの元となっているのは生活習慣病ということになります。従いまして、歳を取ってからではなく、現役世代から検診や保健指導をきちんと受けて頂いて、生活習慣の改善を図っていく必要があります。また、先程から子育ての話が出ておりますが、究極の介護予防は、元気な子どもを育てることと言われておりますので、子どもの頃から食生活や運動習慣が重要となってきます。これらの取り組みを県が主導して頂いて、地域や学校、職域が重要になってくると思いますので、そういったところへも働きかけをして頂いて、現在も将来的にも元気な徳島になるように、全世代に広げていくのはいかがかと思っております。

提案させていただきます。

(保健福祉部)

人生100年時代を迎える中で、高齢者のフレイル予防の取り組みをしておりますが、それを全世代に向けて取り組んではどうかというご提言でございます。委員おっしゃるとおり、高齢者になってから健康づくりに取り組むより、若い世代のうちから健康の意識を持って様々な取り組みを行うことが、極めて重要であると認識しております。1つはご指摘のとおり、検診をしっかりと行う、早期に病気の芽を発見して、摘み取っていくという取り組みが大事だと思います。また、徳島県人は運動をする量が少ないということもありますので、今年度の新しい取り組みとして、健康アプリという事業を作りまして、若い方も取り組めるような形で、歩数をカウントできるスマホアプリを開発して、2月1日にキックオフイベントを行ったところでございます。今年4月から本格運用という形でございます。これは、様々な世代に入りやすい取り組みをしていきたいと考えているところでございまして、高齢化が進む本県、糖尿病の数値も決していい数字ではございませんので、色んな施策をミックスしながらやっていきたいと考えておりまして、県医師会ともしっかりと連携をさせていただきたいと考えております。

(山中会長)

中副会長お願いします。

(中副会長)

年末に渋谷に行きまして、街が全部青色のLEDで、歩けないくらいすごい人がいました。LEDが進んでいるのは徳島と思っていたのですが、他県に遅れを取らないように県を挙げて、どこの市町村からでもあれくらいの街づくりができると思います。木々やネオンが全部LEDですごくきれいでした。関連する企業も徳島に多く設置され、雇用の創出も見込めますので、他県に遅れを取ってはいけないと思います。

(山中会長)

はい。ありがとうございます。それでは、副知事からお願いします。

(後藤田副知事)

私どもの方から回答できてないものについて、コメントさせていただきたいと思いません。青木委員の方から、世界初のDMVを活用した観光戦略ということで貴重なご意見を頂きました。またDMOを使ってということで、県としても緊密に四国の右下観光局やそらの郷、イーストとくしま観光推進機構と連携を取りながら、観光振興を図っていききたいと思っております。また、病院船・防災船のご提言を頂きました。防災というのは徳島県だけでできるものではなく、広域防災・医療ということで、直ちに実現できるものではないかもしれませんが、十分に研究をさせていただきます。

いと思います。

梯委員の方からも、阿波踊りは徳島県の宝であるから、これを交流人口や関係人口に結びつくようなということでご提言を頂きました。また、定着人口ということで、若者の雇用の場の創出と特に市内中心部におけるサービス業の充実が重要というようなご意見も、県としてもこれから考えていくべき課題であると思っております。それと共に阿波踊り推進課がたちまち実現するかどうかは分かりませんが、いいアイデアだと思っておりますので、今後広く考えてはいきたいと思っております。

今頂いた貴重なご意見やご提言は、今後この計画を策定していく上で、十分に反映させて頂いて、2月議会で計画策定を行ってまいりたいと思っております。

今日はどうもありがとうございました。

#### <事務局説明>

- ・会議録の公表について、事務局で取りまとめた上、発言された委員に確認を頂いてから、発言者名も入れて公開したい。
- ・次回の開催日について、来年度の開催となるが、山中会長と相談の上、改めて皆様にご連絡させていただく。

～以上～